

甲陽だより

発行所
西宮市甲子園高瀬町3番7号
甲陽学院同窓会
電話西宮(0798) 0622高0623番
郵便番号 663
編集人 原 清
印刷所 印 刷 所
株式会社 紺谷印刷所
大阪市生野区田島3-1-10
電話大阪(753)2566番

新任の御挨拶

甲陽学院 高等 中学校長 小河 清 磨



甲陽が創立されてから、すでに半世紀を越えて、その間に西宮の地に、たくましく根を張り、幹を太らせ、枝を上へ伸ばしてまいりました。これは実に創立当初における創設の方々の非凡な識見より発した不動不変の教育理念、教育に対する信念があったればこそと信じて居ります。その理念とは、気品高く、教養豊かな有為の人材を養成するという全人教育であり、個性を尊重し、天賦の才能を啓発することを目標とする教育であったと思えます。その中から甲陽の伝統が生れ、育つてまいりました。しかし、この遠大なる理念も、実に古代ギリシャの時代から現代に至るまで文明国民のすべてが追求してきた理念であり、何等新しいものでもありませんが、それより生れた伝統こそは、我々甲陽独自のものであります。

我が国の教育の歴史の中で、維新前にありました各藩における藩校とか、学園所などでの教育は、知的教育に偏していたように思われます。当時そこに学んだ子弟達の人格形成、体力増進は、武士道の横溢していたその家庭において、その両親より厳しく養育され、学園所で徳育、体育を等閑に付しても、何等弊害を生じないものがありました。下つて維新後、学制が布かれ、学校が全国に建てられたが、その当時、欧米諸国の科学知識の進歩、物質文明の発達に脅威を感じて、大いに

国民の知的教育に力を用いねばならぬとして作られた学制が、まだ当時は、人格教育、健康増進などについては、各家庭で両親より感化を受けるもので、学校で徳育、体育などに意を用いる余裕など殆んどなくとも、たいして弊害はないと思われたのでしたが、以後教育が国民すべてのものでなつてまいりました。伴い、知的には欧米に追い付き、追いつきになりました。この點は、德育方面は、なおざりになったと思われまふ。しかし維新前でも、学園所などのような、いわば官立の学校に對して、松下村塾のようなところがありました。吉田松陰は、そこで教えたものは、他の学園所と同様、四書五経であり、その教え方も何等変わるものではなかったにもかかわらず、この松下村塾からは、多数の卓越した人物が輩出して居ります。この點は、官立の学園所に対して私学とみることであります。明治以後に於いては、新しい学制に對する官立への不満から、全国各地に私学の誕生をみることにあります。その不満の中心が何か。教育の理想を何におくのか。それによつて各私学は独自に発足し、発展して参りました。

この京阪府の地は、日本の良識の中心地であると思つて居ります。中でも、ここ六甲の背にいた阪神の地は、その良識を育てる最良の地といえます。そこに生れ出づるべく生れた甲陽は、画一的詰め込み主義を排して、各自の天賦の才能、資質を啓発せしめることを目標とした全人教育をする学校であります。德育を通じて、天与の資質を見出して、それ

に知育の練磨、体育の鍛練を加えることにより、知育・德育・体育共に伸張していくものと信じて居ります。しかし現在、国が定めた学科教授要目、カリキュラムや、大学入試の現状をみますと、学校の知育に對して要する時間や、先生方のそれに向ける精力が、あまりにも多いのであります。そのため、そのたらざることを補うには、家庭と学校とが協同して力を尽さねばなりません。そのため父兄会がもたれて居りますが、これと同じ意味において、同窓会の皆様方のお力をおかりいただきねばならぬと思つて居ります。生徒からみれば、同窓の諸先輩方は、たのもしい叔父さんであり、先輩諸兄からは、生徒は可愛らしい甥達のはずだからです。

学校の授業では、教師は日々高められた自分の知識を十分に生徒に伝えると同時に、授業外でも生徒と接する機会を多くもらいたいと念願して居りますが、何分効力ですので、両方共全することは不可能に近く、今日では、学校というところは、生徒の教育について決して万能ではなくなつて居ります。けれども本校に於いては、つとめて生徒と先生との接触を多くし、その調育の機会が多くなるよう努力いたしております。現在の学制下で、幸い中高六カ年一貫教育ができました環境にあり、さらに幸いなことに、中学と高校が適度に離れた位置にあります。あの熾烈な大学入試を控えた高校と、高校への入試などの心配のない中学校が別の地にわかれてあることと教育の面からみて、非常に意義のあることと考へて居ります。この比較的のびやかな空気に満ちた中学校では、各学年毎に、野外での先生と生徒全員との合宿を行つておりますのも、生徒と先生とが寝食を共にするという機会を得たいが為です。

又体育についても、一番身心の発育するこの時期に、体を作ることの重要なことは運動クラブの活躍であります。時間をふさぐためとか、余暇をつぶすためではなく、瞬発力と持久力を養うよう、しかも一日の自分の時間を有効に配分できる習慣が身につくようにしたいものと念願して居ります。

この四月、甲陽学院の校長を拝命し、その重責を思うとき、今後共、折りある毎に母校にお立ち寄りの上、諸兄からのご指導、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げる次第です。

年会費の経過について

同窓皆様に同窓会の経常費について御協力を願つてより五年を経過しました。積々軌道に乗るので思つていられた方が多いのではないかと思いますが、同窓の増える一方いろいろと用事はあるもので年会費の協力がなければ唯一の連絡機関の甲陽だよりの刊行も挫折することになります。年会費の年々増加はありますが毎年新らしく同窓が生れて来ていることを考えるとき余り良い傾向であるとは云えないと思ひます。同窓会を育て母校との連りやるとき今一層の御協力を願ひたいものです。

回期	人 員		回 費		高 校		中 学	
	46年	47年	46年	47年	46年	47年	46年	47年
1	31	33	21	32	41	21	14	20
2	18	15	22	42	42	15	7	33
3	19	18	23	52	43	16	13	19
4	16	16	24	35	44	39	10	12
5	16	17	25	29	45	50	38	10
6	22	20	26	47	46	47	47	10
7	18	21	27	51	47	48	52	10
8	20	25	28	65	48	49	50	10
9	15	29	29	72	49	50	51	10
10	20	30	30	81	50	51	52	10
11	22	31	31	91	51	52	53	10
12	24	32	32	101	52	53	54	10
13	21	33	33	111	53	54	55	10
14	22	34	34	121	54	55	56	10
15	16	35	35	131	55	56	57	10
16	17	36	36	141	56	57	58	10
17	18	37	37	151	57	58	59	10
18	18	38	38	161	58	59	60	10
19	20	39	39	171	59	60	61	10
20	38	40	40	181	60	61	62	10

甲陽学院同窓会 夏季大会 御案内

- 日時 八月二十六日(日) 午後二時より
 - 場所 母校 甲陽学院高等学校 講堂及び食堂
 - 会費 一律二百円
 - 但し特別会員及び今年春入会会の新会員は招待。
 - 申込 準備の都合もありますのでなるべく早目に、同封振替用紙にて年会費も併せて申込み御送金頂ければ幸いです。(当日の飛び入り参加も勿論歓迎いたします)
- 昭和四十八年七月 甲陽学院 同窓会

あれから何年

同窓会会長 原 清



原会長 近 影

「あれから一年」——私が同窓会長のパト
ンクツチを受けてから、早くも二年目の後会
を迎えることになりました。ふりかえって見
ると、僅かの月日のうちにも世の中は大きく
変わっています。新幹線が岡山まで延長し、沖
縄が二十七年ぶりに本土復帰、また内閣更迭、
日中復交など、この一年はめまぐるしいこと
でした。

ましてや「あれから五十二年」——私が母
校、甲陽中学に入った大正十年をふりかえつ
て見ると、世相の変転は驚くばかりです。あ
のころ、母校の東側、つまり今の校門附近は
一帯の松林で、甲子園球場のあるあたりは枝
川の清流が水音を立てて流れていました。鮎も
沢山泳いでいました。放課後、私たち剣道部
員は練習がすむと、稽古者のままこの川に飛
びこんで汗を洗い落したものです。

もちろん母校は本道二階建ペンキ塗り。こ
の校舎と寄宿舎、教員住宅数戸があるほか、
あたりは見渡す限りのイチゴ畑で、阪神電車
は、その畑の中を突っ切って西宮東口まで走
ってゆくの教室の窓から見えました。だか
ら生徒募集のパンフレットの表紙には、小川
姿の少年がスポンの裾をまくり上げた、小川
で魚とりをしている写真が載り、「自然の中で
学ぼう。放課後のひととき校舎近くの枝川で
遊ぶ本校の生徒たち」という説明もついてい
ました。今の人々には想像もつかぬ、まご
とに和やかで清らかな空気が漂っている環境
でした。

学内の空気が清らかでした。先生と生徒が
一緒に学んで、一緒に遊んだもの
です。よその学校では、映画など観に行った
ら怒らばり、という時代なのに、我が母校
では禁止されていなかった。禁止どころ
か生徒会の中に映画研究部を作り、良い映画
観賞の批評欄を築かせたものです。映画館の

数が日本全国でまだ五百ほどしかなかった時
代に、です。

母校の思い出話を長々と書いたのは、老人
につきものの懐旧でもなければ、単なる感傷
でもありません。ただ私たちの母校が、どん
なに古い歴史と、そして、どんなに新しい
思想で成長してきた学校であるかを、もう一度
同窓生一同で確かめ合ってほしかったから
です。

「あれから何年」——なんと美しい、温情
のこもった言葉ではありませんか。私は、こ
の言葉が大好きです。同窓会の楽しさもまた
ここにありませう。過去を同じくする者、若
同僚が集まり、昔をふりかえり、現在を語り、
そして未来を論じるところに歓びがあります。
みんなが仲間意識で話し合えるところに大き
な意義があると思えます。

もちろん先生も生徒も、ここでは一対一で
いい。七むつかしい話はいりませう。同窓
が集まるとときどき、商売を離れ、社会的
地位を忘れ、その昔の生徒時代にかえって、
楽しく気楽に話し合おうではありませんか。
私はそんな気持ちでいます。会員のみなさん
のご賛同をお願いします。

総 会 報 告

過年度の事業報告並に決算の承認、今年度
の事業計画及び予算の審議決定を主要議題と
する理事会と総会が去る四月二十四日、高等
学校の同窓会事務室と生徒集會室で催された
当日は生憎夕方からかなりの豪雨に見舞われ
そのせいか出席された理事及び委員諸氏は四
十名を少し割り、その点些か淋しく感じられ
たが、六時から約二時間半、熱心を討議を頂
いた。

事業報告と計画及び予算の概要は別記の
通りであるが、今年度は林前校長、太田前教
頭、浅野先生の御退任に伴う御餞別と去る四
月中旬の林先生の輪舞御見舞の件につき協議
し、金額は会長一任で前年度決算中の繰越金
から支出することとし、それぞれ正副会長と
校内理事同伴で御届けすることに決定、また

今年度の夏季大会も昨年同様母校食堂で
開催することを確認した。なお、比較的議事
が早く進行した為、高岡副会長の提案により
とくにお願ひして、この三月から四月にかけ
て中国の視察旅行をせられた原会長より興味
深い印象談をお伺ひし、有意義裡に散会した。

昭和四十七年度事業報告並に 昭和四十八年度事業計画

原会長が第二代会長に就任された初年度の
事業として、第十七号甲陽便りに詳しく報
告されています。去る十月十四日の銀
座日航ホテルでの東京懇親会の開催があげら
れます。当日は各年次から百二十名を超える
卒業生が参加され、首都東京に於ける甲陽の
基礎が確立されたと申せます。また五十周年
記念として刊行された名簿のあとをうけて、
昭和四十七年度版の会員名簿改訂版千五百冊
が刊行されました。かくして昭和四十七年度
の事業計画は一応成功裡に遂行されたことを
報告いたします。

昭和四十八年度の事業計画としては、校長
交替に伴い、同窓会としても母校がどのよう
な発展を遂げていくかということに關して、
側面から援助を行なう意味からも理事会及び
委員会に於て役員諸氏からの活潑な御意見を
頂きたいものと考えています。

さし当つての問題は八月の会員大会のもち
方と、甲陽便り編集に關することです。また
事務局が一番困つて居ることは住所電話など
の移動が激しく正確な会員の現住所勤務先な
どの把握が出来ないことです。これらを如何
にして充実にしていくことが出来るか、方法を
どう考へていくか、又同窓会の発展のため、どうあ
るべきか、何をすべきかなど広く全般に互つ
て御討議下されば幸甚です。

昭和48年度予算		昭和47年度決算表	
科目	予算	決算	差引額
収入			
会費	1,150,000	1,113,000	37,000
会費未納	140,000	169,352	29,352
雑収入	20,000	253,110	233,110
雑収入	452,427	453,192	765
雑収入	1,712,427	1,989,654	277,227
支出			
役員報酬	375,000	367,500	7,500
役員報酬	20,000	20,000	0
役員報酬	25,000	25,000	0
役員報酬	150,000	130,000	20,000
役員報酬	515,000	723,000	208,000
役員報酬	515,000	515,110	10
役員報酬	27,427	245,692	218,265
役員報酬	1,712,427	1,989,654	277,227
役員報酬	114,000	1,603,192	3,747,151

ある甲陽生の戦中日誌(S14年)

無敵双葉山遂に破れる

○1月2日 今日日は十一時半より甲子園球場
に甲陽中学校対海草中学の野球戦を觀にゆく。
海草は島投手をマウンドに立てて必勝の陣を
布き、我が北之坊投手より安打を奪ひ、失策
を犯して二回に3点を奪得、更に五回交替した
ばかりの別当投手よりその乱れに乗じて三の
四球、島の左中間三塁打を加へて4点の計7
点を奪得に反し、我が甲陽の打撃陣は島の
速球に圧倒され、巧に凡打三振に打取られて
遂に零敗を喫した……。

○1月5日 昨晩遅く平沼一男男爵に組閣
の大命下り、其後順調に進んで本日午前中
に大體成立を見た。顔触れは左の通り。外務有
田八郎留任、内務木戸幸一侯爵、大藏石渡
太郎、陸軍板垣征四郎中将、海軍米内光政大
将、文部荒木貞夫大将……。

○1月6日 ……夕刊に大相撲春場所番付が
載つていた。東は横綱双葉山、大関前田山、
関脇名寄岩、小結羽黒山、西は横綱武蔵山、
大関鏡岩、関脇後山、小結玉の海、男女川は
貼り出した。二所の関の後山、玉の海の名がな
つたのは何と云つても惜しい、残念だった。
○1月12日 昨夜遅くから降り出した寒、何
時の間にか雪と変わり今朝早くまで降つていた
のだから。朝起きて見ると、先ず目についた
のは六甲連山の雪化粧姿、早速双眼鏡をとり
出して焦点を合はす。丁度日本アルプスの山
山を眺めている様な心地……十二時半から講
堂に集合、福井浩委員長から服装について注
意があつた……。

○1月15日 ……第三期開始以来丁度一週間、
初めの日曜日、一日中家の中にいる。昨
日我が陸海軍機が縦横に南支那を爆撃した。
又貯金帳の音に応じて鏡見りの郵便貯金は
一昨十三日に至り遂に四十億四千万五千
五百十六円となり新記録を樹立したところ
である。大相撲春場所第四日、今日の最大の二
ユースは何と云つても東の正横綱、昨日駒の
里を上手投で破り六十九連勝の無敵双葉山が
新鋭安芸の海のたぬきに替わること、立上るや安
芸猛烈に突張るを双葉負けずに突返し、突合
うこと二三合、安芸素早く左を入れ上手廻し
を引けば双葉嫌つて巻戻へ右差し、こね上げ

◎新校長と教員の移動

九八年間、芥川先生の後を受けて校長の任にあられた林先生は、今春三月末、一身上の御都合で本校を退職せられ、四月より阪神学園浪速予備校の理事長に就任せられた。御執任以来、短編乍ら若々しい情熱と、豊かな御経験を以て職務に専念せられ、その間創立五拾周年記念行事をはじめ、中学校の鉄筋新校舎、食堂、高校の柔道場の新築、中学高校の体育クラブ部室の改装、教職員退職規定整備、高校生徒の頭髪服装の自由化等諸方面に多大の足跡を残された。

しかし御在職の後半は、自由化、沖縄問題等をめぐって高校では何かとごたごたが多くなり、御心労も一入だった模様で、とくに昨年度の学校封鎖事件は未曾有のことだっただけに、御退職の決意を促す契機になられたのかも知れない。折角新生活に発足されようとした矢先の四月十七日、雨中浪速予備校の開校式に急がれる途上、予備校前の横断歩道で乗用車に入院されることになった。御年齢のこともあり腰痛復雑骨折という診断で短期の御回復は望めないが、御経過は順調でとくに上半身は殆どかすり傷一つなく、われわれ見舞者にも元気に応答せられて御全快の見通しは明るい。なお同窓会よりは、総会の決定により去る四月末日、原会長と中島久理事同伴で御見舞し、賤別、御見舞金をお渡しした。

後任の小河清盛校長は、今更ここに御紹介するまでもなく、戦後の卒業生は恩師としてお馴染みの筈である。旧制甲南高校から京大の数学科を出られ、去る二十三年以来ずっと本校に御在職でいわば生え抜きの先生、奇しくも前校長と同じく数学畑の御出身ということになるが、温厚誠実な御人柄、冷静俊敏な御判断は夙に衆目の認めるところ、四半世紀に近い甲陽での御在職経験を背景に今後の御活躍を期待したい。なお、新校長のもと教頭は(高)宮川(中)村上、教務主任は(高)中島博(中)上村、指導主任は(高)岩尾(中)高井の諸先生という所が今年度の陣容である。

人事異動もかなりあって、浅野、中島慎、先生はじめ講師の先生方の御退職に代って、高校に中村泰、山下、中学に吉田、井上(四六回卒)先生を迎え、また講師としても中村(三五回)勝村(四六回)両先生が着任、賑やかに変わった。

○中村先生(生物)のこと(18今西)

危機感が、僕を空想から現実と呼びもどしふと目を上げると「あな恐し」、教壇の中村先生が僕の方をにらみつけておられる。その目つきたるや、一見や太り過ぎぬ温厚そうな身体つきからは、想像もできない。教員生活二十余年、壮年期を迎え、油の乗り切った感で、自信ときびしさが同居している。この先生をおこらせたら大変なことになると思う。

更に驚くべきは、僕が空想の世界にいた、わずかに十分程の間に、授業は、激しく進んでいった。黒板には見えない文字が既に書かれてあったことだ。声は大きく、言葉もはっきりしておられ、決して早口ではないのだが、従って我々にとつて悩むべきは、居残り及び内職をすることが非常に困難であるということである。

○山下先生について(2D大谷)

山下先生は、私達が中学のときからずっと習っている細井先生の尼北時代の教え子であつたとか。また先生方の平均年齢の高い(一)甲陽においては非常な若さで、我々の年齢差が少ないという点では親しみが持てるようである。

甲陽 母校

その反面、その若さでバリバリ押しつけてこられて、授業の進度が速い、すなわち授業中に解く問題数が多い、言い換えれば試験の範囲が広いというところで、皆、目を白黒させながらヒューン言っている様子。

といったも授業が粗いわけでもなく、授業中の説明や指摘されることは、的確かつ明快で、先生に鋭く指摘されると思わずこが頭にはいつてしまおうというわけである。

○ご挨拶

このたびは母校中井先生の代役として体育を担当させていただくことになりました。従来よりサッカー部のOBとして、ある意味でフリーな立場で指導させていただいておりましたとは違つて、厳しい教育の現場の組織の一員として勤めることの責任を改めて痛感して、文章の意味を汲みとることの困難な小生にもう一度母校で恩師に今度は勤めながら御指導を受けようというのが代役をお引受けした理由です。小生の在校中とは違う驚きは何より生徒数が倍増している我々が、唯だんに社会の流れにうまくなつてゆくとつて(小生にとつて)今しなければならぬ真の学習とは何だろうか?今一度母校に於いて素晴らしい人間関係の中で学習させていただけたらと考えています。何卒よろしくお願ひ致します。

浅野先生御退職

戦前から戦後にかけて長年御勤めになられた浅野先生がこの三月限りで退職されたことも惜しまれる。先生は昭和十四年春、東大御卒業と同時に本校の生物科教官として赴任せられ、僅か一年で成応、主として中国大陸に御転戦、復員後暫く他の職に就いておられたが昭和三十年以降再び本校に御勤務になつた。昨年春より不眠症がひどく、その為屢々御欠勤になつて、御加療も思うほどの効がないとかで、授業を欠いて迷惑をかけては、と

近況

御退職になつたものであるが、別段他に何処という健康上の故障がある訳ではなく、一見日頃と変らぬ御元気を御様子である。なお今は河内長野の御旧居の方へ移られる御予定の由。生物地学の御授業を通じ、談笑で几帳面なお人柄は印象深く、カメラを二三百枚らき、リュックを背負つた登山姿は懐かしい限りである。

小野貞雄先生御逝去

去る四十六年春春休大御退職された小野先生は、その後御元気に大御遠征に御勤めであつたが、この四月三十日夕刻心臓麻痺のため急逝された。享年六十八才、御葬儀は五月三日午後自宅で行われ、同窓会からもしきびを供へ代表が参列した。頭脳明晰、経験豊富、併せて端正温厚な先生の御人柄は、広く同窓生の敬慕するところ、中には甲陽大道と再度御世話になつた人もある筈、まだまだ社者を凌ぐお元氣であつただけに惜しまれる。謹しんで御冥福をお祈りする次第である。

て廻しを持つ。双葉ぐいぐいと匂い気味に寄る所安芸よく残し、双葉上手を探りつつ右から下手投を打たんとした時、安芸の右足がきつと一閃双葉の左足に掛つたと見るや外掛け流石の大家双葉も、体勢が崩れてたし弱点の左足を攻められたことと遂に土俵上に倒る。かくて双葉の七十連勝は成らず、新鋭安芸のため敗れたのである。……

○2月1日 今日から愈々二月だ。朝の体操なく、神社参拝、福徳神社である。清い空気を一杯吸って心の底まで美しくなった。五時限は佐藤先生が休んでいられるので化学の田中先生で自習。……

○2月3日 ……海軍省午前十一時の公表によると昨二日未明豊後水道に於て演習中の伊号第63潜水艦は豊艦と衝突沈没し、目下全力を挙げて救難作業中であるとのことだ。又去る一月二十一日大阪を出発した全支那格闘飛行の鶴岡は大阪—福岡—台北—北京—青島—上海—漢口—台北—廣東—

○2月11日 今日には神武天皇御即位以来二千五百九十九回目の紀元節である。学校で拝賀式あり。校長先生から我が国体の万邦無比であること、……というお話があつた。

一時少し前渡迎君来る。一緒に徒歩で甲子園浜の科学化部隊隊防演習を覗にゆく。……二時過ぎ前と同じ方向の鉛色の空から三機機隊の攻撃機、地上すれすれまで急降下して機関銃掃射約十分、東側の高射砲陣地の射撃が飛行機のいなくなるにつれて終ると、今度は左手西側の砲兵陣地から猛烈なるつぎつぎと、豆を煎るやうな砲陣地の機関銃の音が暫く続く。やがて戦車の第一部隊五台を蹴って進撃。……何事もないうやうに鉄条網を倒して敵陣地に突入して行く。まるで無人の境をゆく奮戦ぶり。……だんだんこちらへ来た時侯のすぐ右手あたりで少し地面にめり込んできた。いくら速くも……堅い地面の上では無敵の戦車も、あ

なると思ひだした。歴史五時半過ぎ。○2月15日 ……二時時は。歴宅、芳邦先生が欠勤されたので吉田先生。……我が軍の海南島上陸部隊は檢村方面を占領確保し進撃中である。伊は英の申し入れを拒け、リビア駐屯軍を六万二千名に増員す。

◆濃くなる戦時色

……

会員名簿の整理について

毎回のことでありますが相変らず甲陽だよりを発送する毎に転居先不明にて多数の返送があります。二月発行の十七号の返送も二六〇通もありました。郵税の無駄を考へてもよき甲陽だよりと思つていただけるかもしれませんが、このことばかりでなくいろいろの方面に不便をかけていることを考へて欲しいと思つてます。住所の変更を知らずことは義務として下さい。二月発行の十七号の分で返送のあつたもの氏名左記の通りです。住所ご存知の方はご通知頂ければ幸甚です。

- 第一回 池田徳太郎
- 第二回 吉田辰之助、木村正次、韓九潔
- 第三回 福本久一、大谷彦二郎
- 第四回 武藤正雄、紅山秀男、大原文雄
- 第五回 矢島孝雄
- 第六回 渡辺三郎、川部重次郎
- 第七回 曾根義治、藤井利一
- 第八回 芦田芳夫
- 第九回 松村要、田中七兵衛
- 第十回 三好哲、田沼博、久保田滋
- 第十一回 阿部 薫、高道進一
- 第十二回 横井達夫、岡田英之助、湯浅竹之助
- 第十三回 中沢数一、橋本竹生
- 第十四回 小倉利夫、山鳥辰夫、沢田重治
- 第十五回 全沢一郎、森本成巳

○高校野球部便り

今年の夏の全国大会予選の目標としては、ベスト16、できればベスト8まで進出したいというの、シード出場が決定する、春の県大会予選では、決勝まで進出した。決勝では打線の不振で惜敗したが、この自信は大きい。とにかく、波にのればシード校以上の力が出ると思う。

チームの構成は、投手陣では、昨年からエース垣見がいる。垣見は現在九勝四敗、防御率一・九八と好投している。又、完封勝利も四試合記録している。夏の子選でも、垣見の好投に期待がかけられているが、二番手投手の池田も成長が著しく、変化球を主体としたピッチングで、垣見とはまた違った味がある。また、二年生の投手でコントロールのよい井原も経験を積んでおり、投手陣は層が厚い。打撃面では、久保、垣見、池田の総合

- 第十六回 佐野修二、横山八郎
- 第十七回 橋本晃芳、萩原文二、佐々木信夫
- 第十八回 大川輝雄
- 第十九回 中村行雄、玖島豊一、静岡宗雄
- 第二十回 北村修三、沖野秀雄、井田市朗
- 第二十一回 栗岡義朗、山下三枝夫、村井三郎
- 第二十二回 安達振作、清水康男、松村喜八郎
- 第二十三回 国上健二、岡田敏治、岡本貞夫
- 第二十四回 加美邦男、石丸 孝、福島茂太
- 第二十五回 中尾武生、藤森 望、窪美史郎
- 第二十六回 遊佐英一、松田真一、津田 脩
- 第二十七回 勝部秀一、榎本能一
- 第二十八回 岩橋健爾、齋藤 隆、田中敬次郎
- 第二十九回 吉野秀郎、上谷卓郎、内田義元
- 第三十回 黒坂 隆、西松剛康、日田豊晴
- 第三十一回 道盛秀明、浜雄次郎、金谷秀雄
- 第三十二回 林田一雄、鎌田 博、天池 聖
- 第三十三回 小西健夫、笹倉 昭、加藤泰生
- 第三十四回 坂口諒一、江川和男、増島文夫
- 第三十五回 田中秀文
- 第三十六回 鶴田寛昭、野間晋太郎、西中弘
- 第三十七回 西山 寛、福井 泉、川辺政義
- 第三十八回 小林昇、葉山幸弘、木下周吉郎
- 第三十九回 依 治、井内千治
- 第四十回 引岡部夫、西村孝典、亀井量太
- 第四十一回 河村節夫、山崎昌宏、森田安良
- 第四十二回 第二十六回 山田正夫
- 第四十三回 第二十七回 尾角省一、松井 寛、井上正巳
- 第四十四回 第二十八回 武田正巳、内田和久、真殿相治
- 第四十五回 有井 晋
- 第四十六回 浅田俊雄、岩上 孝、近藤良彦

打率三割五分で長打力で定評のある、クリーン・アップ・トリオが中心となっている。垣見、池田、合わせて五本塁打をマークし、久保も本塁打こそないが、三試合連続三塁打を記録している。又、四割近い打率をマークしている水杉に、巧打の森本を加え、一試合平均得点五・八と高い。守備面では、捕手高岡と左翼手久保の肩、二塁手森本の堅実な守備が見ものである。主な戦績は、長年勝てなかつた県芦屋に接戦で二勝し、県尼崎に、クリーン・アップの本塁打攻勢で快勝した。又、報徳、市尼崎にも善戦し、春の県大会予選では、県芦屋、宝塚に対し、連続完封勝ちをしている。今年のチームは、控え選手の層が厚いのも強味であるといえる。最後に、OBならびに関係者の方々に、暖かいご支援を今後ともよろしく願ひ致します。期待にそえるよう、頑張ります。

- 第二十八回 井上美良、安田収志
- 第二十九回 森 龍二
- 第三十回 田中直、式村健二、大喜多晃
- 第三十一回 岡本親明
- 第三十二回 長尾吉彦、山田 宏、中辻 清
- 第三十三回 安達正剛
- 第三十四回 安藤博良、花房幸夫、阪本好司
- 第三十五回 松本 学、逸見隆二
- 第三十六回 藤井三郎、近藤弘文、今井 宏
- 第三十七回 小松 武、小林 允、谷山公一
- 第三十八回 浜尾 仁、藤山正樹、阿部常彦
- 第三十九回 鈴木靖雄、片岡隆城、辰 卓
- 第四十回 飯田昌弘
- 第四十一回 石原正紀
- 第四十二回 越智良輔、佐藤泰司、安達忠修
- 第四十三回 光井仁司、鶴田和成、浜根恒夫
- 第四十四回 土路恒行、安達 智、有田健一
- 第四十五回 溝口量司、北村武彦
- 第四十六回 細文雄、松崎紀樹、永井純士郎
- 第四十七回 横谷種明、市田圭一
- 第四十八回 反町 勝、吉本理嗣、中川治朗
- 第四十九回 石田東策、前田征良、櫻井康二郎
- 第五十回 遠山 龍、野田益清、黒田尚孝
- 第五十一回 下村典久、大西利夫、松村雄次
- 第五十二回 下村安男
- 第五十三回 沢田靖士、津田昌宏、長谷川芳郎
- 第五十四回 小玉 弘、松尾征治、岸 勝彦
- 第五十五回 高木隆弘、神田順弘、永田幹彦
- 第五十六回 三木隆夫、畑山義明、高野幹雄
- 第五十七回 森本芳樹、越智 秀、面高邦昭
- 第五十八回 井上 肇
- 第五十九回 浜田邦彦、天方昌和、中村社一
- 第六十回 西田幸弘
- 第六十一回 鶴野一成、三木〇生、浜井頼介
- 第六十二回 大内一晃、青木淳一、梅木弘道
- 第六十三回 清水 勇
- 第六十四回 田中寿一、波岡卓規、下村 勝
- 第六十五回 田中勝彦
- 第六十六回 明石映弘、米本公一、国生 肇
- 第六十七回 神沢 一、尾崎俊二、西村公男
- 第六十八回 高瀬和彦、三成龍平、福田雅夫
- 第六十九回 中村研一
- 第七十回 藤山正治、宮下 永、中本行政
- 第七十一回 日浅 稔、黒木康全、矢尾義一
- 第七十二回 東横良旺、小谷龍二、佐藤敏夫
- 第七十三回 中田淳一
- 第七十四回 平山洋一、尾関龍夫、松永孝司
- 第七十五回 儀賢豊達、秋山 博、桑江彰夫
- 第七十六回 松本悟、山田裕康、真嶋健一郎
- 第七十七回 鶴 梧

第四十九回 山口吉郎、黒川望洋、山本 徹

第五十回 井上徹郎、中村茂夫、筒井陽一郎

第五十一回 松浦京一、堀 和幸

第五十二回 磯崎茂樹、伊藤研一、小玉裕司

第五十三回 小谷津久、堀 謙一、浜野博次

第五十四回 藤永敏夫

第五十五回 小林研一、田村純夫、春名真琴

第五十六回 益崎守生、玉川裕夫

第五十七回 高商 一回 和田信美、木村孝雄

第五十八回 二回 広島 泰、鷺見亨之助

第五十九回 三回 貴田正孝

第六十回 四回 柴本芳樹

○2月23日……三限の始め講堂へ集合。約二時間、戦線の土産話を聞く。講師は朝日新聞社の原特派員、甲陽中学第5回(大正十五年)卒業の先輩である。パイアス湾と今度の海南島の二つの敵前上陸に加はつて、兵と同じ辛苦をなめて来た人だ。……最後に、海南島はまだ諸外国が何ら手をつけない、に南半は軍事上の要地で、そこに拠点を置けば、シンガポールも仏領印度支那も自由に爆撃できる。……君らが大きくなった時には海南島へ飛行機で簡単にいける、君らの新橋旅行は海南島という位になるだらう」と結ばれた。昼から英訳と地理があつた。……

○3月1日……六時限の武道の終り頃、雷のやうな大きな音がして道場がびりりと震れた。家に帰つて二階に居ると、十分乃至は数分置きにぐらぐらと来る。地震か?しかし余りに連続的だ。併し電灯が揺れる位どかつた。夕方母が「実弾射撃の演習ださうだ」と云われた。……

○3月2日 朝のニュースで昨日の地震?の原因が判つた。即ち、昨日午後二時四十分頃枚方陸軍倉庫の火薬庫西北隅から発火、大爆発と共に附近の民家に延焼。第四、第六師団より歩、工兵、京阪西府より警備消防員救護班を増援して消火。五時頃から下火となり午前一時頃漸く鎮火した、といふことだ。今日午後二時迄に判明した枚方の被害は、死者十名、重傷三十二名、軽傷四百四十名、消息不明三十八名、家屋の全焼約八百戸、半焼約百戸、被災者八千三百十三名。議会で陸相は「作戦に影響なし」と報告。……

○3月4日……十一時過ぎ清水君が誘つて呉れて学校へ、卒業式だ。……一時半頃の光の懐かしい曲が講堂の中を流れ、やがて君が代によつて第十八回卒業式が開始され、証書や賞

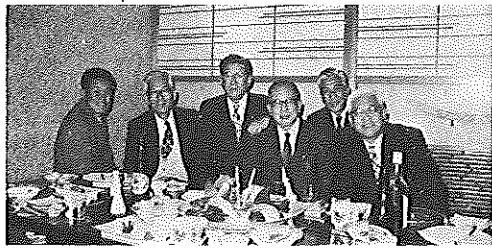
(次頁へ続く)

●駿河甲陽会発足

「いやー」「ようッ」「こんばんは」「どうも」「おそくなりまして」「いらっしやい」こんな挨拶が交わされる六つ声の声。その間十五分位、これというの念の入った準備を上手にこなさんと新妻さんが努力をして下さったからである。みんな時間厳守で集合した。場所は沼津市の静雅な名亭「開花」である。食卓には早くも山海の珍味が運ばれてくる。かくしていよいよ想出の母校甲陽のその昔話である。枝川での立喰い昼弁当、白バラ咲く垣根越しの苺売り、セーラーパンツの流行、ゲートルを巻かなかったカッポ良さ、モンパリの宝塚少女歌劇、旧校舎の雨天体操場の服装検査、新校舎が出来てモダンだったこと、恩師のニックネームがやたらに飛び出す。次第に話は拡がる一方である。ピールの空瓶が林立するにつれて、みんなは紅顔の美少年時代へと化身して行く。

突然高桑さんが持参のパンゴのチャックをほごいて、舶来のウイスキーを差し出される。ホッとして飲むもの、めいめい好みによって頂く。ウイスキーの芳香が部屋に充満する。香川さんがこの会合に命名しようではないかと発議する。岡田さんが駿河甲陽会と案を出す。異論はない。ここにこうして駿河甲陽会が発足したのである。

駿河甲陽会にはこんな経緯がある。それはゴルフである。先ず最初香川さん、新妻さんがお互に顔も名も知らずゴルフをしていた。ドウもお互に関西弁である。「あなたはどこ？」、「ボクはここです」対話の進行につれて母校甲陽の名にぶつかったのである。握手をした。では一つ甲陽の同窓生を集めようという次第、高桑さん、岡田さん、岡田さん、岡田さん、岡田さんというわけで、極めて順調



に話が進んでいったのである。ゴルフの腕前の程はここでは秘しておく。

岡田さんと新妻さんは遠くシベリヤの苦斗に話がかき、香川さんと新妻さんは健康の話に、果てるとなく予定の時間が迫ってくる。上念さんが「勘定が足りない」と追いつて飛んでくる。「それじゃ追加だ、追加だ」と高桑、岡田さんがいうと、新妻さんが「これは私の縄張りです」という。はや頭の中は次回のたのしみに移っているのである。

甲陽の卒業生は静岡県にまだいる筈だ。卒業年度回数にこだわらず参加を求めよう、と高桑、岡田さんがいう。一同賛成。(甲陽だよりを見た静岡関係者ほどしどし知らせて下さい)

遂に時間が来た。高桑さんが持参のカメラで一同パチリ。女中が事が来ましたという。みんな名残を惜しみながら、春灯下のそれぞれの車の中に吸い込まれていった。時は昭和四十八年三月九日午後九時五十分であった。

甲陽 会員便り

集合した同窓生は次の通り。

高桑 昇 (八回) 岡田 啓 (八回)
香川正一 (十回) 二宮 猛 (十回)
新妻俊男 (十三回) 上念良五郎 (十五回)
文貴及び連絡先
静岡県富士市入山瀬七三三〇一
二宮 猛
(写真右より)
岡田、上念、二宮、高桑、香川、新妻

◎恩師の横顔

同窓会の理事の係りの方より何か書けと注文され、恩師の横顔でも……と言われてます。い筆をとります。

私達の卒業は大正十三年でした。当時の先生達は十四、五名で、殆ど逝き去られ、私達は六十五才を越え老人期に入った者ばかりです。今の甲子園球場もなく、枝川の支流の申川が流れ、一面の松林つゞきでした。

今も眼にうかぶ恩師の授業ぶりを拾ってみますと、那波止男先生、随分恐ろしい先生であつたやうな気がします。黒板を根節のついで

た筈でコツコツ叩きながら説明され、いたずらな奴にはその筈でお見舞です。ポケットにはいつも半紙の四つ切れを入れておられ、授業の終りには決して今日言う所のテストです。十問題が十点で、期末にはその合算点がつき一点の懸けもありませんでした。騎兵隊上りであつたせいか、とに角恐ろしい存在でした。(私も、既に退職しましたが大阪府立堺工業高等学校に創立以来三十五年余り勤め、英語担当であつたため、那波先生の真似をして綴字のテストで生徒をいじめたものでした。初めの中は生徒数百名でしたが、増加するにつれてずばらすようになりまして)先生を一度クラス会の集りにお招きしましたが、その後交通事故のため間もなく亡くなりました。裁重臣先生、室長を兼ねておられました。おしやれな先生でした。今でいう乳液でもつけておられたのかいとも良い匂いをさせておられ、陸鼻術という調を加えられるのが得意でした。生徒の鼻をつまんで、ねじまげるのでなく、顔の方へ一寸引き上げるので、どこにコツがあるのかわかりませんが痛くて涙が出てきます。今は故人のS山君がよく泣くので、殊に英語の時間がそれが激しく泣く理由で鼻をつままれる常連の一人でした。或る日また陸鼻術を受ける時がためた事ですが、かねての覚悟が鼻汁一杯ためた事に臨んだわけです。先生が鼻をつままれるや、つと鼻汁が一杯に流れ出し、之には流石に先生も往生されたやうで、以後は白墨の粉を指先につけて陸鼻術を施されるようになったと記憶しています。その後第三代目の校長になられた方です。

柴宮八十彦先生——立派な髭を八文字に貯えられ、コロネビヤ大卒卒とか。英語の朗読がうまいく、ワロズワイズ、スコット等の詩を度々聞かして頂いたもので、私が下手ながら英文学に走つたのも先生の影響だったと思えます。東京にいた頃、北陸の高岡におられた先生の御宅を二、三度お訪ねしたように思います。御遺族はどうされているでしょうか。

三回卒 後藤駿馬

た筈でコツコツ叩きながら説明され、いたずらな奴にはその筈でお見舞です。ポケットにはいつも半紙の四つ切れを入れておられ、授業の終りには決して今日言う所のテストです。十問題が十点で、期末にはその合算点がつき一点の懸けもありませんでした。騎兵隊上りであつたせいか、とに角恐ろしい存在でした。(私も、既に退職しましたが大阪府立堺工業高等学校に創立以来三十五年余り勤め、英語担当であつたため、那波先生の真似をして綴字のテストで生徒をいじめたものでした。初めの中は生徒数百名でしたが、増加するにつれてずばらすようになりまして)先生を一度クラス会の集りにお招きしましたが、その後交通事故のため間もなく亡くなりました。裁重臣先生、室長を兼ねておられました。おしやれな先生でした。今でいう乳液でもつけておられたのかいとも良い匂いをさせておられ、陸鼻術という調を加えられるのが得意でした。生徒の鼻をつまんで、ねじまげるのでなく、顔の方へ一寸引き上げるので、どこにコツがあるのかわかりませんが痛くて涙が出てきます。今は故人のS山君がよく泣くので、殊に英語の時間がそれが激しく泣く理由で鼻をつままれる常連の一人でした。或る日また陸鼻術を受ける時がためた事ですが、かねての覚悟が鼻汁一杯ためた事に臨んだわけです。先生が鼻をつままれるや、つと鼻汁が一杯に流れ出し、之には流石に先生も往生されたやうで、以後は白墨の粉を指先につけて陸鼻術を施されるようになったと記憶しています。その後第三代目の校長になられた方です。

柴宮八十彦先生——立派な髭を八文字に貯えられ、コロネビヤ大卒卒とか。英語の朗読がうまいく、ワロズワイズ、スコット等の詩を度々聞かして頂いたもので、私が下手ながら英文学に走つたのも先生の影響だったと思えます。東京にいた頃、北陸の高岡におられた先生の御宅を二、三度お訪ねしたように思います。御遺族はどうされているでしょうか。

三回卒 後藤駿馬

○浅野先生の御住所

御遺願された浅野先生の御住所は左の通りです。お便りを差上げて下さい。

〒584 富田林市富田林町二九一一
浅野 昌隆

○小河新校長の御住所

小河校長先生は神戸に御自宅がありますがこの程左の校長住宅に転居されました。平常は同所にお住いです。

〒662 西宮市安井町二二三四
小河 清昭

恐らく毎年、どこかで、何十回と甲陽の卒業生のクラス会、学年会が開かれていく筈です。記事が面倒なら出席者の名前、寄せ書き、写真だけでも結構です。どしどし送って下さい。

○クラス会便りを!

恐らく毎年、どこかで、何十回と甲陽の卒業生のクラス会、学年会が開かれていく筈です。記事が面倒なら出席者の名前、寄せ書き、写真だけでも結構です。どしどし送って下さい。

◆戦時中の甲陽中学の教育

○4月8日 七時過ぎ森君が誘ひに来て呉れ共に登校。教室は一階だ。始め福徳神社参拝次に教室に入り色々の注意其の他。ついで級長などの選挙あり徒前通りと定まる……

○4月10日 朝は蹴球をする。第一限訳で朝田先生、二時限代教佐藤先生、三時限物理田中先生、四時限漢文重松先生、五時限歴史芳野先生、六時限教員で島田先生だった。

○4月18日 一時間目修身小川先生、駿國の文法は加藤先生で分らなかつたらコツンとやられる。十数名やられた。僕は半分出来たが一寸間違つたナと云つて軽く叩かれた。藤井君はこぶが出来て来た……

○4月25日 今日靖國神社の臨時大祭だ。朝九時校庭に集合、全校一斉に福徳神社に詣でて護國の英霊を拝す。十時運動場を斜に切

(次頁につづく)

状が次々に渡されてゆく……在校生総代岡内君の送辞等がありそれに答へて卒業生総代中野君の答辞があり、続いて父兄総代の方のお札の言葉があつて後、生徒一同元気に校歌を合唱して式を終つた。『仰げば尊し』の曲に送られて父兄、卒業生が退場する。僕もあの歌を聞きつつ、三年前の小学校卒業式のことがありありと思ひ出された。紅白の饅頭を買つて帰る……。枚方の損害は、死者六十七、重軽傷五百八十、不明百八十、家屋全焼二百八十、半焼五十七、全壊三十九、半壊百七十六とかなり大きい。

◎東京二十期生会

去年東京懇親会が盛大に行われ、その帰途我々の同期生会をやるという事になりました。実のところ同期生会は既に発足して、その先年第一回の会合を開きました。その時学校の名簿によって連絡したのですが、半数が返送となり、それでも八名(道工、北村、加久間、近藤、村田、住野、戸井、小林)が集まり、一夜大いに語り飲み合った次第で、第二回は新宿で十一月十八日行い、九名(福本、村田、森、ほか前回の中六名)集って案しく語り合いました。



我々戦中後期派は様々な運歴を経てきたのですが、三十一周年振りといふ長い年月も一足とびに消え、あの藤棚の下で未来を語り合った少年齢の健康を祝し合いました。同窓といつても春組まであった我々はお互の直接交際は少なかったとしても、話し合っつてみると意外な事を細かく記憶して、同期生ならではの味わえぬ共感を覚えました。やはり我等も五〇才になり、益々充実した人生を送らんと健斗を誓い合った次第です。

写真右より(職業地位は敢て省略します) 森……小柄ながら意気旺盛、常に春風を起こしています。 村田……その昔「聖人」の仇名を奉つた学究肌、今やヨガに熱中して、コレステロールには断食療法が一番との事。 住野……学生結婚第一号、既にお孫さんがいる由。 小林……この報告の筆者、相変らず瘦せています。 大野……社交ダンスを通じて恋愛結婚、国際

的紳士です。 道工……酒の通としては坂口博士に強々と豊富な話題の持ち主。

戸井……今を時めくイラストレーター。昔の親分肌は消えな。

福本……温厚な彼は若さで皆を圧倒。 村田……昔陸上競技、今は会社の野球とスポーツに張り切っています。然し体調が少し衰え昨年人間ドック入り。

以上選ねましたが御報告まで、同窓の皆様によりしくお伝え下さい。なお当会は毎年一回は集まることになっております。 東京都小平市学園東町一六六六 小林 英夫

◎日曜たあ会

毎年正月元旦、夕方五時頃になると、何やら怪しげな影が一人、二人、そしてやがて三十人を越える人数が甲陽中学近くの某先生の御宅に集まって来る。彼らこそ誰であろう、誇り高き我等が「日曜たあ会」のメンバーであり、某先生とは「日曜たあ会」の一際ユニークな存在であられる高井先生である、それも、この奇妙な会名の由来は、卒業当時我々が三年D組であったことから、これをもちつてサウダー、つまり日曜と、たあ会は先生の御名前からいただいた。何しとあれ、毎年連絡もしないのにこれだけの人数が集まるのは偏に先生の御人徳である。さて教員集まるたびに、「まあ一杯」に始まり飲み食い放題、云いたい放題、その中を先生は初夏の帖の如く泳ぎ回られる。そして我々は先生の話を有難く頂戴し、一年間の報告をするのである。そうする内にも一人、又一人、「明けましておめでとうございませう」という声と共に懐かしい顔があらわれる。やがてN君の顔が赤黒くなり、話題が高校時代の事となると、もう当時の出来事やアダ名がボンボン飛び出して正に、ハチの巣をつついたが如き様相を呈して来る。中には病氣持ちもあり、すぐ人らしい顔を顔、顔中ヒゲだらけの顔、皆んな変わってないネ。おお、幸あれ幸あれ、高井先生をして甲陽学院の前途に栄光のあらんことを……高井先生の奥様、来年も御世話になります。

(五十回 S生)

(前頁より) った線上に並び、宮城を拝して熟考をした。十一時ごろ下校しようとしてゐたら藤田先生が興亜博覧会に行かないかその代り作文を書くと云はれた。大野君がすぐ行きなすますと承知したので僕も行くことへ、受付に行き記念撮影をしてから急ぐ見物。飯でも食べような、先生がおこるからと云はれて、スタソド内の食堂に入りカレーライスを一杯ごちそうになる。それから先ず表忠塔、ついで東亜めぐり、中々うまく作られてあつた。そこを出てから蒙旗広場へ、らくだ、ろば、蒙古馬など沢山。武漢パノラマは雄大だつた。スタソド内には遺品室、満鮮館、支那館、防共館等があつた。途中で先生は先に帰られ、僕らは五時近くになつて急いで帰つた。夜は作文など書いた。

○五月十五日 今日から週番風記生、朝統章をとりに行く。マラソン練習あり…… ○五月十七日 安芸海の勢凄く、今日の七日日迄全勝で、鏡前田の二大関、羽黒名寄の両関脇、小結玉の海を倒してゐる。双葉との決戦が見もの。 ○五月二十二日 今日東京で配属将校校配布の十五周年記念親睦会が宮城二重橋前の広場で挙行された。本校からは岡内君ら五年生十名が参加、僕らは学校で分列式を挙行した。夏場所十二日目、今日も双葉勝つて全勝、法帝戦は帝大連勝。 ○六月二日 中間考査第一日。一時限公民、(1)忠孝一本を説明せよ、(2)家の觀念について(3)我が御民について、(4)禁治産について。次は物理、(1)ラジウム放射線とX線の相違、(2)日本鉄の刀に利なき理由、(3)実用上用ひられる感応電流を得る方法、(4)とその器機、(4)ネズは何の為に用ひるか、(5)とそのわけ。 ○六月十日 昨日から英作、暗誦で大分なぐ

原稿募集!!

今回は係りの不手際もあつて折角の甲陽便りが淋しいものになつてしまひ申し訳なく思つています。内容の多彩で面白いものにするために、各委員の個人消息、クラス会など催しの報告、旧師の近況、在学当時の思い出等何でも結構です。どうか奮つて応募下さい。多すぎれば次回次回へ廻しても必ず掲載いたします。どうかよろしく。

られた者あり。最高記録は小松、今日一時間だけで五回、次は塩井の四回、僕は容易いにあつたのですらすら云へた。 ○8月23日 リッペントロップ独外相モスコイ飛行場に到着、独ソ不可侵条約調印さる。即時発効で期限は十九年。これに關して独外相はその直前大島大使に日独枢軸關係は遺憾無事変更と言明、その為平沼首相と近衛無任相は時局対応策につき重要協議を行つたらしい。 ○8月26日 平沼首相は午後一時半参内し、日独防共強化策の打切りを奏上す。ロンドンからの情報では、事実上は独ソ同盟とみられる。

校内委員名簿

(以下次号) 本校卒の教職員が校内委員として何かとお世話させて頂いておりますが、若い方にもふえ賑やかになりました。御用なり苦言注文等何なりと遠慮なくお申下さい。 山田隆晴 13回(中、教) 井田真也 36回(高、美) 宮本 茂 17回(中高、社) 田上良二 46回(中、英) 柳原 博 20回(高、社) 中村光成 35回(高講、体) 中島 久 22回(高、社) 勝村弘也 46回(高講、社) 吉井良峯 23回(高、国)

編集後記

原新会長の第二年度、母校校長の交送に際して甲陽便りも面目を一新して、と意気込んだのですが、予想外に原稿も集まらず誠に貧弱なものになつてしまひお詫びいたします。 穴埋めのつもりで甲陽生の戦中日記を載せてみました。昭和十四年、筆者の中二、四年の時のもので、原文のままの抜萃でお祖米千円ですが、旧師の名や、当時の学校生活など思い出される事がある会員方もあろうかと思ひます。 夏季大会は昨年に引き続き御案内の通り、に母校で行います。時間もそのつもりで多少早目にしてありますので、クラス会学年会などを計画せられてなるべく併せて多数御参会下さるよう希望しています。 なお、甲陽便りはいわば委員の話の広場です。積極的な御投稿を期待いたしますと共に苦言、忠告、提案等、何なりとどしどしお寄せ下さい。